
夜の電車

月夜輝石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜の電車

【Nコード】

N9776T

【作者名】

月夜輝石

【あらすじ】

カランコロン。缶の音が静かに電車に響く。夜の電車では何が起ころの？ ねえ、知りたくない？

カランコロン。

そんな音を立てて夜の電車は走ります。

誰かが飲んだビールの缶が、左右の壁に当たり、音を立てて動きます。

酔っ払ったおじさんに、塾帰りの子供や、仕事帰りのサラリーマン。みんな椅子に座り、静かに下を向いている。

毎日、夜の電車ではいろんなことが起こるの。

昨日は傷害事件が起きた。一昨日は不良たちの取っ組み合いがあった。日に日にましてひどくなっている。

今日は何が起こるのだろうか。傷害事件の次は殺人事件かな。それともテロでも起きるかな。

何が起こるかわからない、出口のない密室で私は小さく鼻歌を歌う。

そういえば電車では心霊現象が起きるんだっけ？ ああ、一度見てみたいな。

お隣の車両で大きな音が鳴った。何かが叩かれたような音や、ぶつかった音。恐らくケンカだろうとすぐにわかった。

だけど私はそれを止めないし、見に行こうともしない。何が起こるかなんて大体検討が付くから。酔っ払いが誰かとぶつかって、取っ組み合いになって、殴ったりしているんだと思う。

私には関係はないけど、とっても迷惑。明日の予習が出来ないから。あ、今日になってるかもしれない。

集中できなければ静かにしてもらえばいい。私は片手に水が少し

滴る傘と、たくさんの本が入った鞆を持って隣の車両に行く。そこではやっぱり予想していた光景があつて、思わず呆れてしまう。鞆を肩に背負いなおして、彼らに歩いていく。車両には誰もいなくて、二人だけが殴りあいをしている。多分巻き込まれたくなくて、他の車両に行つたか、もともといなかつたか。

「ねえおじさん」

私が話しかけても全く気付かない。壁にぶつかつて、蹴り飛ばして、鞆で頭を殴つて、それでもやめずにやり続ける。一人が私に気付いたけど、全く相手にしない。

「うるさいからさー静かにしてくれないかなっ」

持っていた傘をその一人の心臓目掛けて突き刺す。私の傘を先が細いし、勢いもつけているから、簡単に突き抜ける。もう一人から悲鳴が上がつて、床に倒れこんだ。

傘を抜くと、透明のビニール傘の先が赤く染まった。ばたりと目を見開いたまま倒れて、どくどくと血を流し続ける。あーあ、汚れちゃった。

「う、うわああああっ！」

「ほら、君もうるさいよ」

そのまま傘を倒れこんだ男に突き刺す。今度は少し突つかかったけど、貫通しちゃつたな。うるさい悲鳴だけを残して、死体に重なる死体。

これで静かになった。私はその車両の近くの椅子に座り、教科書を開く。

夜の電車は何が起こるか分からない。

(後書き)

なーんか出来てしまった一品。
雑でごめん。初のホラーなの

あんまり怖くないけど、、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9776t/>

夜の電車

2011年10月6日14時14分発行